



市民ネットワーク議会通信

2021(令和3)年 千葉市議会第3回定例会 9月6日～10月5日

編集・発行
市民ネットワーク

〒261-0004 千葉市美浜区
高洲3-20-45 403号
Tel&Fax 043-379-4958
http://shimin-network.jp/

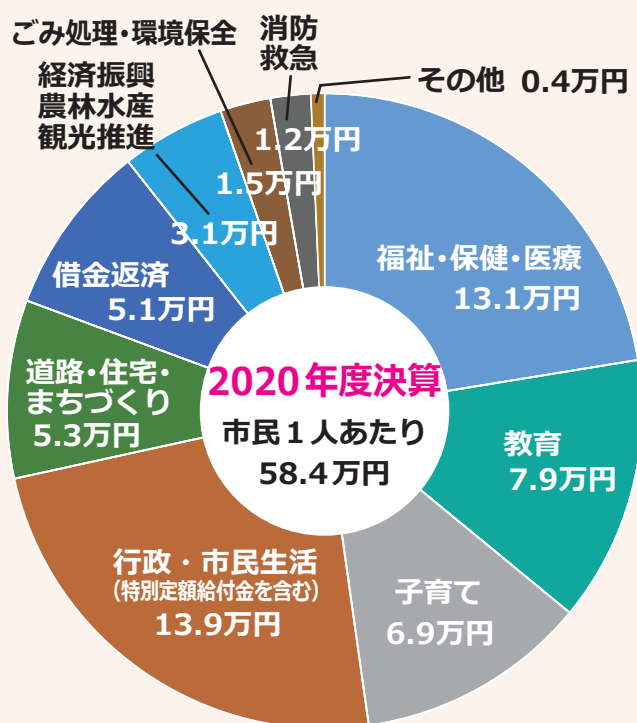


国の交付金活用でコロナ対策が進む 2020年度決算

2020年度は新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金をはじめ、国の補助金を活用し、本市財政への影響が少ない方法で、最大限の効果があがるよう事業が進められました。また子育てや教育に関連する新規・拡充事業に積極的に取り組んだこと、「災害に強いまちづくり政策パッケージ」に基づき各種施策を推進する等、現状の課題に着実に取り組み、全体として適切な財政運営がおこなわれたと判断し、決算を認定しました。



松井かよ子 (美浜区) 山田京子 (若葉区) 岩崎明子 (若葉区)



千葉市のホームページ「みんなの財政」
市のお金の使い道をわかりやすく解説
しています。R2年度決算を参照下さい

一般会計の収入は57億7200万円、支出は57億8900万円。国からの補助金の増があったことや、コロナの影響による市税収入の減は来年度に反映されるため、57億2400万円の黒字が確保できました。国からの特別定額給付金(1人10万円/給付人数 97万1000人)985億4000万円の割合が大きく、過去最大規模の決算額でした。借金も少しずつ減っていますが、今後も公共施設の老朽化対策などに費用がかかります。改修して残す、統合する、廃止するなど、施設のあるり方については地域ごとに市民との対話を怠りないに行い、市民の合意を得ながらすすめることを要望しました。

想定外の黒字
コロナの影響は来年度へ

- 市民ネットワークが目指した事業**
- ◆ 防災対策(防災備蓄品の拡充や分散避難・在宅避難のための備え)
 - ◆ 地域日本語教育推進計画の策定(外国人登録数 28,530人)
 - ◆ パートナーシップ宣誓制度(1年で29組、延べ89組)
 - ◆ 男性職員育児休業取得率(92.2% 政令市第1位)
 - ◆ 生活困窮者対策(花見川区に生活自立・仕事相談センター新設)
 - ◆ 妊娠・出産包括支援(母子健康包括支援センターの相談員増員)
 - ◆ 高齢者・障がい者の移動支援(福祉有償運送事業者への助成)
 - ◆ 学校内での支援体制の充実(スクールサポートスタッフの増員)
 - ◆ フリースクールとの連携(学習支援モデル事業と一部児童生徒へ費用助成)
 - ◆ 気候変動への対応(気候危機行動宣言の発出)

決算審査特別委員会分科会での発言

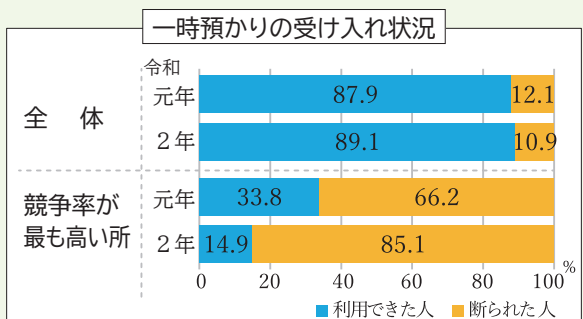
総務分科会

- ▶ **防災備蓄品**については今後、更新計画を作り、入れ替えをするそうです。有効な再利用方法(窓口に必要な人に配布する)や保管状況の確認(カビや結露はないか)など、きめ細やかな観点での計画策定を求めました。
- ▶ **県と市の連携**が始まりました。水道事業の統合、消防ヘリコプターの共同運用、子ども医療費をはじめとして千葉市だけ県の割合が低く不公平な扱いとなっている補助金について、連携推進会議で検討されます。市民からの提案についても、話し合いのテーブルに載せるよう要望しました。
- ▶ **宝くじ**は、市内販売分が市の収入になります。2020年度は25億900万円でした。宝くじ公式サイトでネット購入した場合でも、住所に応じて、市の収入になります。市内で購入する人を増やすよう、周知を求めました。(松井かよ子)



教育未来分科会

- ▶ **預けたい時に預けられる体制を!**
保育園(所)での「一時預かり」は、保護者にとって大事な「よりどころ」です。しかし、なかなか利用できないという声を聞き、全体でどのくらいが断られているか、また、競争率の最も高い所ではどのくらいなのかを聞くと、予想以上に高い数字が示されました。用事で預ける場合もありますが、育児で孤立化し、自分に使える時間も取れず、つらい思いでいる保護者にとって、まずは、子どもと離れる時間を持つことが大切。リフレッシュすることで、次の元気が出てくるものです。希望者が利用できる体制を整えるよう要望しました。(山田京子)



保健消防分科会

- ▶ **コロナ禍での生活困窮者**へ、住居確保給付金等の支援が行われたことを評価。必要な人に支援が行き渡るよう周知をすること、また生活自立・仕事相談センター職員増員などで、就労支援を進めることを求めました。
- ▶ **介護予防**のため、口腔機能維持の保健指導等を行っていることを評価。ワンコインで受けられる歯周病健診などの受診率を上げるため、継続的な周知啓発を要望しました。
- ▶ **ひきこもり地域支援センター**等、市民に接遇する職員(委託も含む)は、必ずLGBT研修を受け、言葉遣いへの配慮を求めました。
- ▶ **コロナ禍で海浜病院の夜急診**の受診者が減少したことをうけ、本当に必要な人に医療を提供する夜急診のあり方を検討するよう要望しました。
- ▶ **消防局の女性の働きやすさ**を向上するため、女性の困り事について男性職員が理解を深める取組を求めました。(岩崎明子)

